

ALWAYS

三丁目の夕日

吉岡秀隆 堤真一 小雪

堀北真希 もたいまさこ・三浦友和・薬師丸ひろ子

(特別出演)

携帯もパソコンもTVもなかったのに、
どうしてあんなに楽しかったのだろう。



須賀健太 小清水一揮/マギー 温水洋一 神戸浩 飯田基祐 小木茂光/益岡 徹 小日向文世

原作:西岸良平「三丁目の夕日」(小学館 ビッグコミックオリジナル連載中) 監督・VFX:山崎 貴 脚本:山崎 貴・古沢良太 音楽:佐藤直紀 主題歌:D-51「ALWAYS」(PONY CANYON)

エグゼクティブプロデューサー:阿部秀司・奥田誠治 製作:高田真治・亀井 修・島谷龍成・平井文宏・高本雄二・西垣慎一郎・中村 仁・高村達雄・高野 力 プロデューサー:安藤親広・高橋 望・守屋圭一郎 ラインプロデューサー:竹内勝一 撮影:柴崎幸三 照明:水野研一 録音:鶴巻 仁 美術:上條安里 装飾:龍田哲児 VFXディレクター:渋谷紀世子 編集:宮島竜治 音響効果:柴崎憲治 助監督:川村直紀 制作担当:金子堅太郎 VFXプロダクション:白組 オリジナルサウンドトラック:パップ 特別協賛:ハウス食品

企画・制作プロダクション:ROBOT 製作:日本テレビ・ROBOT・小学館・パップ・東宝・電通・読売テレビ・読売新聞・白組・IMAGICA / STV・MMT・CTV・HTV・FBS 配給:東宝 ©2005「ALWAYS 三丁目の夕日」製作委員会 四等券 100円

www.always3.jp

《解説》

昭和33年——日本はけっして裕福ではなかったけれど、人々は明るくきらめく“未来”に向かって懸命に生きていました。この年着工された東京タワーは、まるで人々から希望を託されたかのように、着々と天に伸び続け、完成のときを迎えます……。『ALWAYS 三丁目の夕日』は、そんなタワーを背景に、下町に暮らす個性豊かな面々が織り成す感動と希望の物語です。原作は、西岸良平氏による『三丁目の夕日』（小学館「週刊ビッグコミックオリジナル」連載中）。連載開始から30年以上

にわたって人々に愛され続け、シリーズ発行部数1400万部を誇る人気作品です。監督は、「ジュブナイル Juvenile」、「リターナー Returner」で、VFXジャンルの本格的開拓に成功した山崎貴。緻密な時代考証、広大なロケセット、そして最新のVFX技術によりリアルに再現される昭和30年代の街並みを背景に、今の日本が忘れてしまった“心”を温かな目線で描き出します。主題歌を担当するのは、「NO MORE CRY」の大ヒットで一躍注目を集めた男性デュオD-51。伸びやかな歌声で作品に華を添えます。



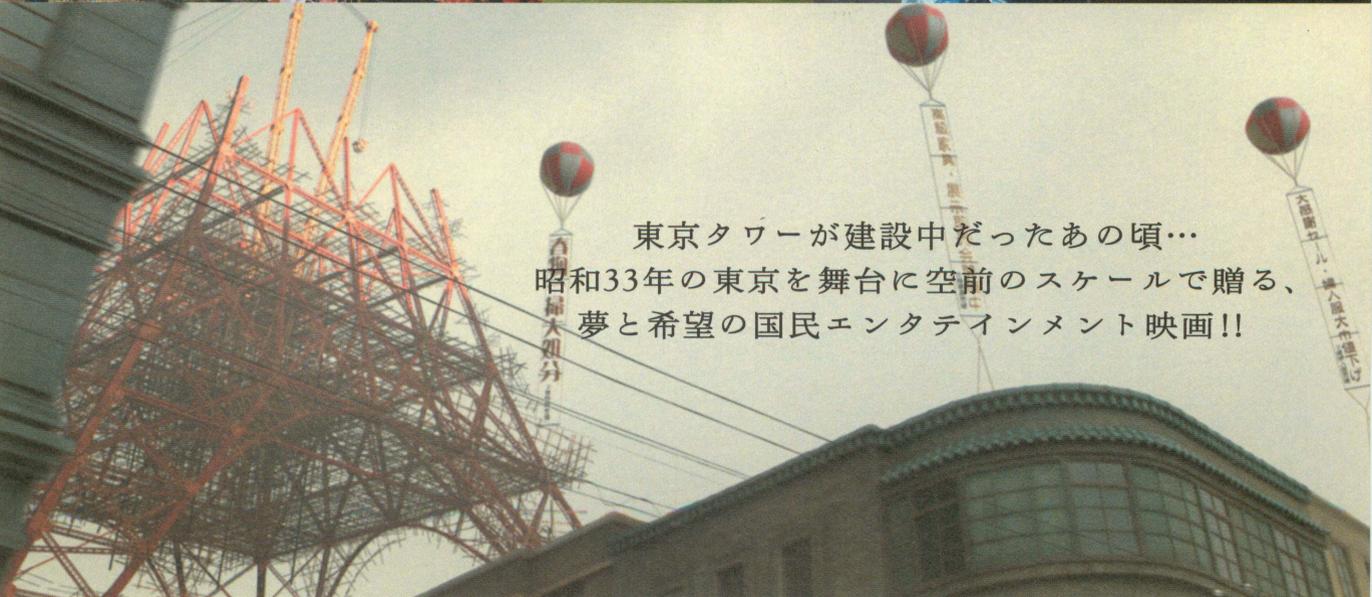
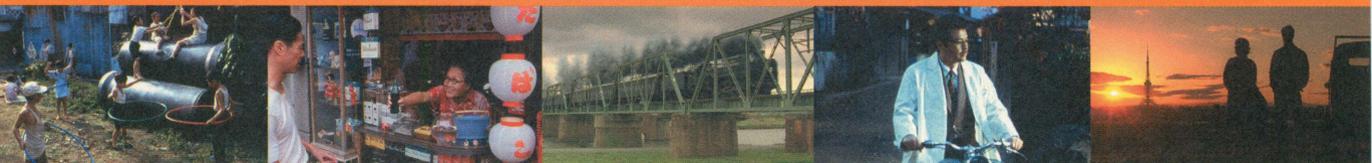
《物語》

昭和33年、東京タワーが完成するこの年、東京下町の夕日町三丁目には、人情味あふれる住民たちがにぎやかに暮らしていました。そんなある日のこと、鈴木則文（堤真一）と妻・トモエ（薬師丸ひろ子）、息子・一平が暮らす自動車修理工場・鈴木オートに、集団就職で上京した六子（堀北真希）がやってきます。ところが、立派な会社を期待していたらしい六子は、どこかがっかりした様子……。

小説家の茶川竜之介（吉岡秀隆）。一杯飲み屋のおかみ・ヒロミ（小雪）に恋心を抱く茶川は、ひょんなことから、彼女の元にも連れられてきた身寄りのない少年・淳之介の世話をすることに……。

さて、六子に加わった鈴木家には何が起こるのでしょうか？ さらに、茶川と淳之介の奇妙な同居生活の行方は？ 夕日町三丁目の人々には、どんな未来が待っているのでしょうか？

一方、何かと則文と反発しあう駄菓子屋の店主で、しがない



東京タワーが建設中だったあの頃…
昭和33年の東京を舞台に空前のスケールで贈る、
夢と希望の国民エンタテインメント映画!!

11月5日(土)ロードショー

特別鑑賞券発売中! 一般¥1,300

有楽町マリオン・阪急側

日

劇

2

渋谷・道玄坂109前

渋谷シネタワー

☎ 03(3574)1131

☎ 03(5489)4210